

Title	ヴスコ・ダ・ガマの水先案内
Sub Title	
Author	松本, 信廣(Matsumoto, Nobuhiro)
Publisher	三田史学会
Publication year	1932
Jtitle	史学 Vol.11, No.3 (1932. 10) ,p.154(482)- 154(482)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19321000-0154

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

ヴスコ・ダ・ガマの水先案内

ヴスコ・ダ・ガマが喜望峰を迂回してアフリカ東海岸マリンデイに達し此處から愈々印度洋を横断して印度カリクットに向つた際回教徒の按針を同船せしめた。從來の葡語史料は、此按針の名を *Canagua*, *Memmo Cana* などと云つてゐるが、之は航海術士を意味する *mu'allim* 占星術士を意味する *Karaká* より來た名であり、本名は、アーマド・ビン・マージド *Almad bin Majid* である。彼は、印度洋航海術に關する著書を著し、此方面に於ける傑出したる學者であつた。彼の著書の一部が十六世紀の中葉にトルコの海將シディ・アリによつて譯出されてゐるが、その原本は最近フェラン氏により注意せられるまで巴里國民圖書館の藏書中に埋もれてゐた。その書は、三十三篇の水路誌及び航海術天文学の論文を含み、その編述の期間は一四六〇年から一四九四—九五五年に及んで居る。その中最も重要なものは *Kitab al-fawaid* であり、當時の天文学・航海學の一大綜合と云ふべく、イブン・マージドは近世水路誌家の開祖とみなすことが出来る。彼の家は、祖父以來水先案内であり、そして何れも航海に關する著書を殘してゐる。彼は此點に父祖の遺業をついだのであるが、彼はまた文中に三人の水路誌航海指針書の編纂者に就て語り、自分はその後繼者であると述べてゐる。彼の紅海に關する記述は、今日の歐人の帆船水路誌に劣らぬ正確さをもつてゐる。たゞインドネシアは印度洋の沿岸島嶼よりやゝ不正確である。イブン・マージドの記憶は、十九世紀の前半までなほ土民の中に殘存し、アデンのそばで彼は羅針盤の發明者として崇拜されてゐたことをバートンが一八五六年に記録してゐる。彼の利用した文籍の數多き點よりその博覽強記の學者であつたことが明證される。ヴスコ・ダ・ガマは、實にかくの如き好個の水先案内を得て始めて始めて印度洋横断の大業を成就したのであり、彼の名は、ヴスコ・ダ・ガマと相並んで記憶せられるべき價值をもつてゐる(イブン・マージドに關する記事は G. Ferrand, *Instructions nautiques et routiers arabes et portugais des XVe et XVIe siècles, tome III, Introduction à l'astronomie nautique arabe, 1928, p. 183—237* (イブン) (松本信廣)。